

※※2006年1月改訂

(第4版, 薬事法改正に伴う改訂)

※2001年6月改訂

貯 法: 遮光した気密容器

使用期限: 容器に記載

止しや剤

日本薬局方

タンニン酸アルブミン

タンニン酸アルブミン「三恵」

Albumin Tannate

日本標準商品分類番号	872312
承認番号等	(59AM) 999
薬価収載	薬価基準収載
販売開始	1984年10月

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌(O157等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕
- 牛乳アレルギーのある患者〔ショックまたはアナフィラキシー様症状を起こすことがある。〕
- 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
〔本剤投与により過敏症状があらわれることがある。〕

【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)
細菌性下痢患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

※【組成・性状】

1. 組成

本剤1g中, 日本薬局方タンニン酸アルブミン1g含有する。
本剤は, タンニン酸とたん白質との化合物である。
たん白は乳製カゼインである。

2. 性状

本剤は淡褐色の粉末で, においはないか, 又はわずかに特異なにおいがある。
本剤は水, エタノール(95)にほとんど溶けない。
本剤は水酸化ナトリウム試液を加えるとき, 混濁して溶ける。

【効能・効果】

下痢症

【用法・用量】

タンニン酸アルブミンとして, 通常成人1日3~4gを3~4回に分割経口投与する。
なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

※【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

肝障害のある患者〔肝障害を悪化させるおそれがある。〕

2. 相互作用

(1) 併用禁忌 (併用しないこと)

薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
経口鉄剤 (フェロミア, フェロ・グラデュメット, インクレミンシロップ, フェルムカプセル)	併用により相互に作用が減弱することがあるので, 併用をしないこと。	鉄と結合し, タンニン酸鉄となり, タンニン酸による収れん作用が減弱する。

(2) 併用注意 (併用に注意すること)

薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
塩酸ロペラミド	塩酸ロペラミドの効果が減弱するおそれがあるので, 投与間隔をあけるなど併用に注意すること。	本剤が塩酸ロペラミドを吸着することが考えられる。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

※ ショック, アナフィラキシー様症状 (ともに頻度不明)

ショック, アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので, 観察を十分に行い, 呼吸困難, 蕁麻疹, 顔面浮腫等の過敏症状あるいは気管支喘息発作等の症状が発現した場合には投与を中止し, 適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類/頻度	頻 度	不 明
長期・大量投与 ^{注)}	肝障害	
消化器	便秘, 食欲不振	

注) 長期又は大量投与は避けること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

【薬効薬理】¹⁾

本剤はタンニン酸が乳製カゼインと結合し, かつ加熱して硬化処理をほどこしてあるため, 水に溶解せず, 口腔, 胃ではタンニン酸による収れん作用が現れない。腸に至って初めて膵液により徐々に分解してタンニン酸を遊離し, 全腸管にわたって緩やかな収れん作用を及ぼし止瀉作用を示す。胃障害を起こさない。

※ 【取扱い上の注意】

配合変化: アルカリにより分解する。抱水クロラールやヨウ化物と混合すると湿潤する。

【包 装】

500g

【主要文献】

1) 第Ⅻ改正 日本薬局方解説書 広川書店

【文献請求先】

株式会社 三恵薬品 品質管理室
〒441-8033 愛知県豊橋市入船町21番地
TEL<0532>45-6136

※※ 製 造 販 売 元



株式会社 三 恵 薬 品

〒441-8033 愛知県豊橋市入船町21番地

F7-1